

## ウォーターコイル

■機能 冷温風発生用

■熱媒体 冷水・温水

■用途 空調分野/ビル、ホテル、劇場、工場、船舶など広範囲にわたるビジネス空間と居住空間の冷暖房装置に用いられます。産業用機械分野/《熱風発生》 各種工業製品の材料や加工工程での乾燥を目的に比較的低温域の熱風発生装置として幅広く採用されています。《冷風発生》 除湿や有機溶剤回収などを目的とする冷却装置に利用されています。

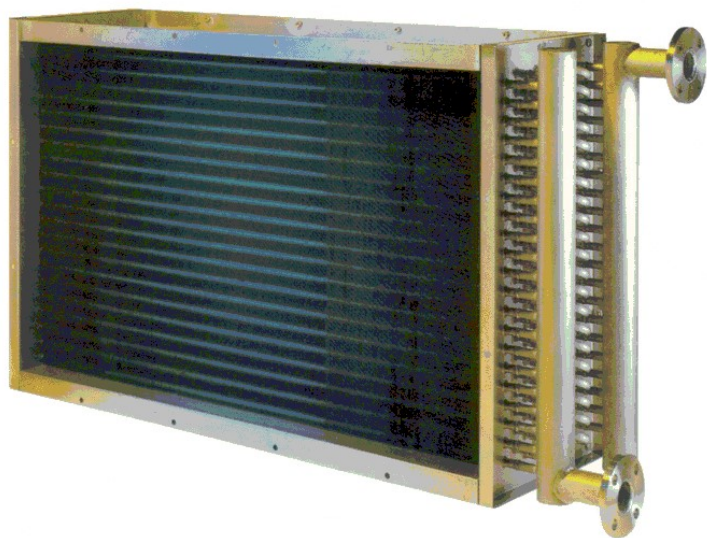
■エレメント素材

[チューブ] 銅管、銅管、SUS管

[フィン] アルミフィン、銅フィン、SUSフィン、

■標準仕様

1. チューブ 15.9mm、  
縦目無リン脱酸銅管
2. フィン 0.18mm厚  
純アルミニウム板
3. フィンピッチ 2.5mm、3.0mm、3.5mm
4. 列数 2~10列
5. 有効長 2600mmまで
6. 段数 4~36段



■ヒータの設計に際し下記事項をご指示頂ければコンピュータにより即座に仕様をご提案申し上げます。

1. 風量  $m^3/min$ 又は $m^3/h$
2. 入口空気温度  $^{\circ}C$
3. 入口空気相対湿度 %
4. 出口空気温度  $^{\circ}C$   
又は必要熱量  $kcal/h$
5. 入口水温  $^{\circ}C$
6. エレメント材質
7. 気密型又は非気密型の別

■ウォーターコイルの設計並びに取扱い上の注意事項

●設計について

①コイルを通過する空気と水が対抗流となるよう設計して下さい。

②コイルを通過する風速は $2m/s \sim 3.5m/s$ の範囲が適当です。冷却の場合、風速 $2.5m/s$ 以下であればフィン表面の凝縮水の飛散はありません。

③コイル管内水速は $0.5m/s \sim 2.0m/s$ の範囲が適当です。

●取扱いについて

①冷却水出入口弁は、コイル内のエア抜きを行ないながら徐々に開いて下さい。

②冬期の凍結には充分注意願います。水循環ポンプのみ運転するか、又はコイル内の水を排出しておいて下さい。

③空気がコイル全面に接する様、又水平に設置願います。

④コイル表面の汚れは圧縮空気、水、洗浄剤等で洗浄して下さい。